

国分寺市でのペンシルロケット水平発射実験成功から60年の時を越えてつなぐ想い

私とペンシルロケット

ペンシルロケットは、「日本の宇宙開発発祥の地」にふさわしい「お宝」

第3回 山田 誠さん (NPO法人日本モデルロケット協会会長・「開運 なんでも鑑定団」鑑定士)

宇宙開発で使用されたお宝を専門に鑑定している私に「開運 なんでも鑑定団」から、野口聡一宇宙飛行士がスペースシャトルで宇宙へ運んだペンシルロケット(2)の鑑定依頼があった。依頼者は富士精密工業(株)「現(株)I H エアロスペース」の元社員で、ペンシルロケットを設計した垣見恒男氏であるとの内容であった。私たち鑑定士は、そのお宝が誕生した前後の時代背景・時間軸の推移を含め、実物であることを見極め、生産数・現存率・希少性・未改造・歴史的価値などのすべてを計算して価格という数字で評価を出している。スタジオでその実機を拝見し、地上にあるペンシル本体を300万円とし、高度400km(3)の宇宙空間に運ぶ費用を1千万円、合計1千300万円と評価額を決定した。

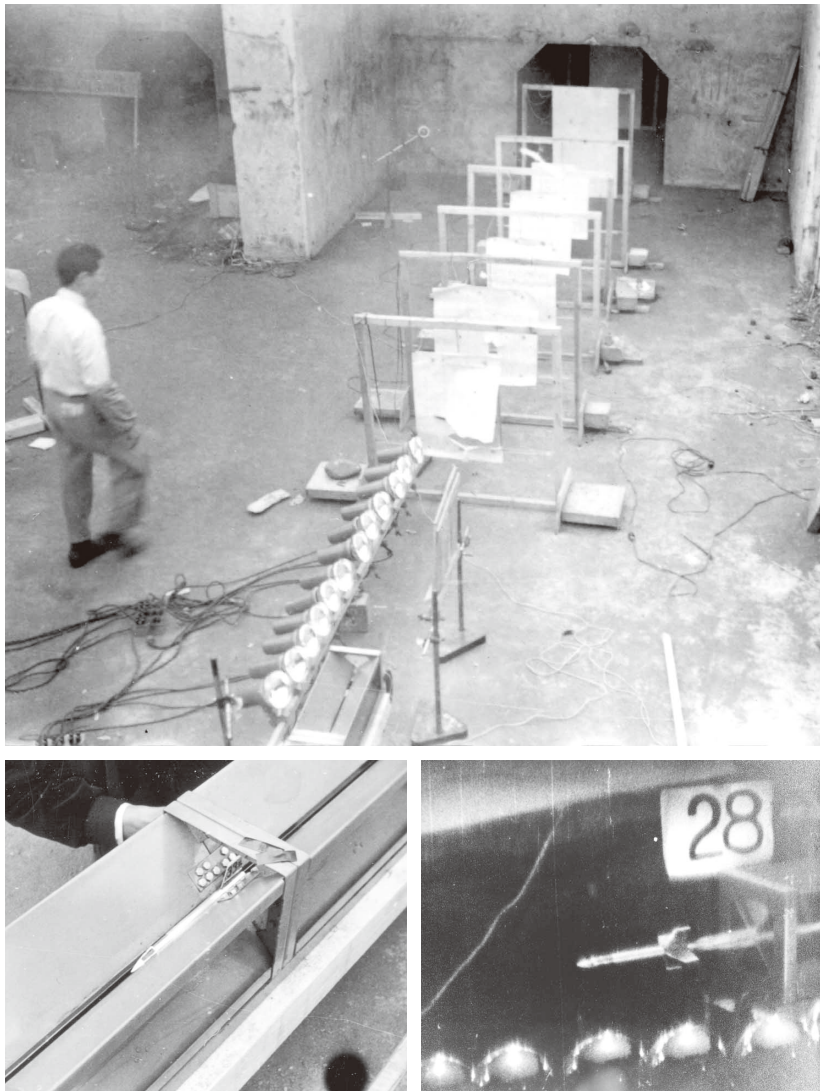
しかし、ペンシルロケット発射実験の時間軸を計算して不思議に思うのは、昭和30(1955)年4月12日に国分寺で水平発射をしてから、わずか4か月後の同年8月6日に秋田県・道川海岸でペンシル300を高度約600mに発射、半月後の同月23日にベビーロケットを高度約5kmに打ち上げている。順番に開発していたのでは、間に合わない期間である。これは個人的な仮説ではあるが、糸川教授は、当時の交通手段では蒸気機関車を取り継ぎ十数時間もかかる秋田で日本初のロケット打ち上げを実施したのでは、取材陣が来ない可能性が高いため、日本政府に対して宇宙開発の必要性を知らせるため、報道機関が集まりやすい国分寺で、日本初のロケット発射実験を実施したのではないかと考える。しかも、上空に発射したのでは、当時の日本に測定可能な装置が存在しないため、測定可能な水平実験を行ったと伺っている。しかし、この水平発射実験は、現場で取材した報道陣には、すべての実験内容が判別できるため、大変効果的だったと考える。

当時200機も製作されたペンシルロケットだが、国分寺の実験に使用されたのは、わずかに29機である。国分寺での水平発射実験が、日本政府に対して「日本の宇宙開発の重要性」を知らせる広報活動だと考えるなら、糸川英夫博士は、最高の広報宣伝マンであり、国分寺市のペンシルロケットは、まさに「日本の宇宙開発発祥の地」としてふさわしい「お宝」である。

▼著者プロフィール

NPO法人日本モデルロケット協会会長(開運 なんでも鑑定団)鑑定士(宇宙・ロケット)、国際航空連盟(FAIR)国際模型航空機委員会(CIAM)日本委員。NPO法人日本モデルロケット協会を設立し、平成2年に日本で初めてモデルロケットを公式に打ち上げる。現在は、モデルロケットを宇宙教育教材として広めるため活動中。

国分寺で、日本初のペンシルロケット水平発射実験が成功してから60年を迎えて、たくさんの方々につながることができました。山田誠さんは、アメリカでモデルロケット(※1)に出会い、当時の日本の法律改正を実現させ、日本に上陸させました。現在では、宇宙開発で使用された「お宝」を鑑定するスペシャリストでもあります。今回は、本市にとってのペンシルロケットを「鑑定」していただきました。(※1) 火薬エンジンを使用して時速約180kmで飛ぶ模型ロケット →市政戦略室(内441)



(上) 新中央工業跡地(現早稲田実業学校)の銃器試射場でペンシルロケットの発射実験は行われました。この水平発射実験は、1955年の文部省の10大ニュースにも選ばれました(左)ランチャー(飛翔台)にペンシルロケットを装着(右)28機目を発射 (写真提供 JAXA)

キリトリ

様式第1号の2(第4条関係)
国分寺市長 殿
国分寺市寄附金申込書(ペンシルロケットレプリカ用) ●1,000機限定 ●寄附金10万円ごとに1機贈呈
私は、国分寺市へ次のとおり寄附を申し込みます。

氏名 (団体名及び代表者名)	ふりがな
住所 (所在地)	〒 -
電話番号・FAX	(電話番号) (FAX)
寄附金額	円 希望機数 機 分割寄附(※1) 1回目 2回目
寄附金の使途 (希望するものに○)	①使途を指定しない(市長に委ねる) ⑦教育施設の整備 ②国分寺産樹、樹林地、地下水、湧水の保全等 ⑧公民館・図書館活動など社会教育の充実 ③公園の整備 ⑨歴史遺産の保存・活用 ④子育て施設や環境の整備 ⑩(仮称)国分寺市郷土博物館建設基金 ⑤高齢者の福祉サービス基盤整備 ⑪その他 ⑥障害者の福祉サービス基盤整備
市への応援メッセージ	
市HPでの公表(※2)	氏名 承諾する・しない 金額 承諾する・しない メッセージ 承諾する・しない
お礼の品の送付先	口上記住所と同じ 口上記住所と異なる(以下ご記入ください)
住所 (お礼の品の送付先)	〒 -
名前	ふりがな 電話番号

寄附金控除に係る申告特例申請書(ふるさと納税ワンストップ特例制度)を希望する場合は右欄に☑をしてください。

個人情報、寄附内容についての市からの問い合わせ、寄附金の納付書及び受領書、寄附金控除に係る申告特例申請書、ふるさと納税についての市からのお知らせ並びにお礼の品(希望された場合のみ)の送付のために使用します。上記目的以外に使用されることは一切ありません。

(※1) 分割寄附の注意
分割寄附の回数は2回までとし、1回当たりの寄附金額は1万円単位とします。分割寄附の2回目は、分割寄附の1回目を行った日(属する年の翌年の12月中)までに行ってください。ペンシルロケットレプリカは、分割寄附の2回目を市が確認しましたらお送りします。分割寄附の2回目がお済みでない方のペンシルロケットレプリカについては、期限に達するまでは確保いたしますが、期限内に分割寄附の合計金額が10万円に満たない場合は、期限までの寄附金額に応じて他のお礼の品を受け取ることができます。期限間近になりましたら、改めて市より通知しますのでご確認ください。

(※2) 未選択の場合は、匿名希望とします。

キリトリ

入手方法

ふるさと納税のお礼に 市民の方も申し込みできます

ペンシルロケットレプリカを贈ります

JAXA宇宙科学研究所共催・1,000機限定

■申込書での申し込み
①右の申込書(コピー可)を切り取って記入し、ハガキに貼り付けるか封書に入れて郵送で〒185-8501財政課へ
②A4用紙に貼り付けてFAX(042)325-1380または直接財政課(市役所第3庁舎)へ

■インターネットからの申し込み
ふるさとチョイスHP <http://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/13214> から※右のQRコードからもアクセスできます
★寄附金額10万円(連続した2年で分割可)ごとに1機贈呈します。
★確定申告またはふるさと納税ワンストップ特例制度の申請(以下「確定申告等」)をすることで、寄附金控除を受けることができます(下表例参照)。

	給与収入(※1)	全額(※2)控除されるふるさと納税額(年間目安額)	寄附の回数・金額	確定申告等の回数	実質負担額
ケース1	700万円	11万8千円	1回10万円	1回	2千円
ケース2	450万円	5万8千円	2回5万円	2回	4千円

(※1) ふるさと納税を行う方の家族構成が、独身または共働き(子どもなしまたは中学生以下の子どもがいる場合も含む)の場合
(※2) 2千円を除く